

# 読書に関するエッセー 入賞作品集 2020

## 《小学生の部》最優秀賞

### 夏の思い出をよみがえらせてくれた一冊

羽津小学校 六年

高嶋梅葉

「もう、夏休み終わりか。」

今年はいつより短かい夏休みでした。突然ですが、みなさんは今年の夏休み、どんな思い出がありますか？私はたくさん思い出があり、とっても楽しい夏休みでした。そんな夏休みを取りもどすべく、学校の図書室でこの本『バアちゃんと、とびっきりの三日間』を借りました。

この本は、認知症と糖尿病をわずらっているバアちゃんと小学五年生のしっかり者、祥太が三日間、夏休みを一緒に楽しむ話です。しかし、このバアちゃん、すぐにどこかへ行ってしまう。それを止める祥太。そんな二人の忙しい&おもしろい夏休みの三日間がこの本にまつています。

祥太は、すぐにどこかへ行ってしまうバアちゃんを止めないといけないので、汗がふき出る中、プールにも行けません。しかし、ふだんあまりしゃべらないバアちゃんとしゃべれて、祥太にとっては良い夏休みだったそうです。バアちゃんもとても楽しい夏休みだったでしょう。私はこの夏休み、近くに住ん

でいるおばあちゃんの家に泊まりに行きました。その日はお母さんのお姉ちゃんも居て、トラップで遊びました。今年はコロナウィルスでお出かけはできなかったけれど、お家でもすごく楽しめました。

一番の思い出は、朝のおさんぽです。朝五時に起きて、妹とおばあちゃんに行きました。近くの川で魚を見ついたり、野良ネコを見ついたり……。外に出るとすぐに汗がふき出てくるような暑さとは反対に、風もふき、すずしく気持ちよかったです。おばあちゃんは老化防止のために毎日たくさん歩いているので、ぜんぜんつかれていませんでしたが、私と妹はともつかれました。でも、おばあちゃんの家に戻って早めの朝ごはんを食べると、つかれがふつとんだような気がしました。おばあちゃんは七十六才ですが、変わりなく元気で良かったです。これが私の夏休みのとびっきりの思い出です。

私はおばあちゃんと夏休みを過ごして、とてもたくさん思い出が作れたし、何よりも楽し

かったです。おばあちゃんも楽しそうにしていました。私は来年、中学生になります。忙しいだろうけれど、また来年もおばあちゃんの家へ泊まりに行きたいです。

今年はコロナウィルスで、旅行やお出かけに行けなかった人はたくさんいると思います。私もその一人です。しかし、この本を読むとバアちゃんや祥太と夏休みを楽しんだ気分になれます。今年の夏休み、思いっきり楽しめなかった方々、この本を手にとってみてはいかがでしょう？そして「もう一度、夏休み

を楽しみたい！」「夏休みの思い出をよみがえらせたい！」方には特にオススメです。なかなかこりないバアちゃんとしっかり者の祥太の夏休みの思い出がまった、『バアちゃんと、とびっきりの三日間』をぜひ読んでみてください。



## 《小学生の部》優秀賞

### ぼくが歴史をすすめるわけ

浜田小学校 五年

木村元揮

「この本だ！」目当てである歴史の本を見つけたときぼくは心の中でそう思います。ぼくは歴史が好きです。でも、姉は歴史に興味がありません。だからここに歴史の本の力を書いて、姉やそれ以外の興味がない人も、歴史が好きになれるようにします。

歴史の本の力はおもに四つあります。一つ目は、歴史の人

物や出来事がくわしく、細かく分かれるところです。大まかな情報しかない印象に残らず、忘れてしまうけど、くわしく、細かく知ったら「〇〇をした〇〇さん」と印象に残りやすくなるので覚えやすくなります。二つ目は、うら話や秘（まるひ）エピソードが知れたりできることです。うら話や秘（まるひ）エピソードを知ると、歴史が面白

くなり、「もつと知りたい」と思うようになるからです。三つ目は、「本は永久保ぞん版」ということです。本は手がるに持ち運べて、いつでもよめるし、期限や制限ありません。いつまでもおいておくことができるので、情報をとどめておくこともできます。四つ目は「共有できる」ということです。自分が「この部分がすごい！」と思うシーンを他の人にも「直接」

見せることができます。他の人に見せると、歴史のことについて知っている人も増えて、歴史について話す相手も増えます。そういうほうがですが、実は歴史好きといつても、すべてが好きなわけではありません。特に戦国時代の武将が好きなのです。なぜかを考えても思いつきませんが、とにかく面白くて、ワクワクするのです。中でも一番好きなのは真田幸村（信繁）です。大阪夏の陣で、最後に家康本陣に突げきして、家康に「幸村に首をわたすくらいならここではらを切る」とまで言わしめたつう快な人物です。伊達政宗もたまりません。幼少期に右目を天然痘で失っても心を強く持ち後世には、「あと二十年早く生まれていたら天下をとれた」とまで称された立派な武将になった人物です。他にもしょう介したい人物がいます。ぼくと姓が同じ木村重成がいます。木村重成は、大阪夏の陣のとき、負け戦と分かっていたので、か

ぶとお香をたいて出陣しました。重成が討ちとられて家康の元に首がとどいたとき、とどいた部屋にはお香のかおりがただよい、「死なせるのは惜しかった人物だ」と感動させました。このように、戦国時代には、み力的な武将がたくさん登場し

ます。本を通じて知り、まさにその時を見たような、一緒に人生を生きたような気になれます。

そうだ、今度の姉の誕生日プレゼントは、歴史の本にしよう。歴史について、姉と語り合える日が楽しみです。

《小学生の部》優秀賞

あつたらいいな、  
こんなパンやさん

浜田小学校 一年

横山 智

きょうりゅうパン、チューリップパン、ヘリコプターパン、てんとうむしパン。こんなおもしろいパンががっこうのきゅうしよくでできて、クラスのみんなでたべられたらいいなとおもいました。でもこのパンはパローにはうっていません。からすのパンやさんにうっています。

ぼくは、からすのパンやさんが好きです。からすのパンやさんのメンバーは、おとうさんとおかあさんとオモチちゃんとレモンちゃんとリンゴちゃんとチョコちゃんの6わです。この6わがちからをあわせてかんがえていろんなパンをつくりまし

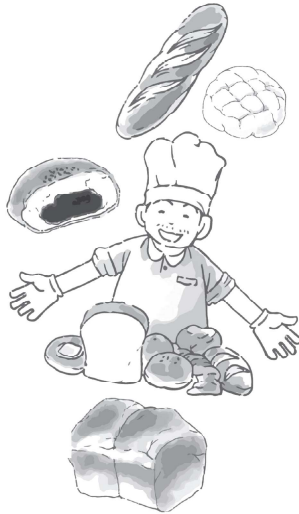
た。こなをねったり、まるめたりしてパンをつくるのが、とてもたのしそうでした。とつてもすてきな、かわったかたちの、たのしいおいしいパンがどっさりたくさんほんにかかれていました。クラスのみんなで、パンをつくってたべたら、とてもたのしくておいしだいろうなとほくはおもいました。

もうひとつ、ぼくがおもしろいなとおもったところがあります。それは、おきやくさんがいっぱいきてならぶところなんです。かじだとおもってしょうぼうじどうしゃもきました。けがにんがでたとおもってきゅうきゅうしゃもきました。じけんだとお

もってけいさつもきました。おきやくさんがいっぱいやってきて、ほんにもからすのおきやくさんがいっぱいかかれていました。むかし、ぼくがいったゆうえんちやプールみたいにこんでいました。それが、おとうさんが

うしました。けいさつやしょうぼうしさんやきゅうきゅうしやのおいしやさんもみんなパンをかっいてきました。ぼくはそこがおもしろかったです。ぼくのいえのちかくに、こんなおもしろいパンやさんがあつたらいいなとおもいます。クラスのみんなにも、からすのパンやさんをよんでもらいたいなとおもいました。

「ならんでください。」といったら、みんながちゃんとならびました。ぼくは、かんど



《小学生の部》優秀賞

屋久島

海蔵小学校 六年

佐野 太玖真

ぼくが紹介する本は、武田剛さんの『もうひとつの屋久島から』です。

この本は、屋久島の真実のすがたをしょうかいする本です。屋久島は日本で一番、雨が降る島ということが分かります。さ

らに、屋久島の屋久杉のことも分かります。屋久杉の中には縄文時代からある木もあります。

うと思うことはありませんか。またかんきょうについて深く考えたことはありませんか。

ぼくが心に残ったことは、屋久島は日本一雨が降る島だということです。年間の降水量は日本一をほこり、約四千五百ミリメートルです。屋久島は一カ月に三十五日も雨が降ります。一カ月は三十日か三十一日なのに「三十五日」と表現するということは、それだけたくさん雨が降っているということでしょう。

ぼくの住んでいる三重県四日市市は、月に数回しか降らないのに、屋久島では月に三十五回も雨が降ります。こんなに雨が降ってしまったら、人々の生活に害が出てしまいます。

次にぼくが心に残ったことは、標高一三〇〇メートルの山中に、堂々と立つ「縄文杉」です。高さは二十五・三メートルで、幹周りは十六・四メートルもあります。この縄文杉は世界最大級の杉で、樹齢は七千二百年とも、数千年とも言われ、縄文時代を知る、太古の生き証人です。

ぼくが思ったことは、七千二百年も前からあるのに現代でもまだ残っているということですね。しかも大きいのでとてもめずらしいと思います。

今、地球温暖化が進んでいます。ぼくは地球温暖化をなくしたいです。理由は、最近地球の平均温度が上がってきて、北極や南極の水が溶けて海面がどんどん上昇して、ぼくたち人間が住めなくなってしまうかもしれません。

ないからです。ぼくは、この地球の海、川、山、そして宇宙のさまざまなところのゴミをなくしたいです。その理由は、他の生き物たちがまちがえてそのゴミを食べて死んでいくので、絶滅する可能性があるからです。

ぼくはこの本をいろいろな人に読んでほしいです。理由は、屋久島のことをもっと知りたくなるし、屋久島が世界中で人気になるからです。もう一つの理由は、日本のさまざまなことも分かるからです。理由は、屋久

## 《中学生の部》最優秀賞

# 本の扉

楠中学校 二年

林 亜依美



島のことだけではなく日本から見た屋久島のことでも知ることができるので、屋久島だけでなく日本のことも少し知ってもらえるからです。ぜひ多くの人にこの本を読んでほしいです。

本を読んでいると、ふと思うことがある。私はなぜ「本を読みたい」と思うのだろう。私はなぜ読書が好きなのだろう。私が出した答えはこの本、原田マハさんの『カフーを待ちわびて』だと言える。

本屋へ行くとまず、文庫が並んでいる棚にざっと目を通す。そして、空腹な時であれば食に関する話、気分が良い時ならコメディ系や青春系、のようにそ

本の読んでいると、ふと思うことがある。私はなぜ「本を読みたい」と思うのだろう。私はなぜ読書が好きなのだろう。私が出した答えはこの本、原田マハさんの『カフーを待ちわびて』だと言える。

本の読んでいると、ふと思うことがある。私はなぜ「本を読みたい」と思うのだろう。私はなぜ読書が好きなのだろう。私が出した答えはこの本、原田マハさんの『カフーを待ちわびて』だと言える。

この本は、「与那喜島」という沖縄の小さな島に住んでいる

主人公・明青の少し変わった生活の話だ。この話を一言で表すとしたら、「あたたかい」だと思う。登場人物の話すきいたことのない方言も、性格も、島の雰囲気も、知らない所なのにあたたかく感じるのだ。そしてもう一つ。この本を読んでいると心の中に海がある。行ったことも見たこともないその景色が分かる気がするのだ。その目の前には海、少し穏やかな気持ちになれる。これなんだと思う。私が最初に書いた疑問の答え。寂しくて、辛くて、どうしようもない時でも、本を読めば幸せを分けてもらえる。やさしい気持ちになりたいから本を読む。悲しいも嬉しいも楽しいもひっくり返して、そう感じられるから読書が好きなのだ。

世の中には読書しない人もたくさんいるだろう。その人たち、「読まず嫌い」ではないだろうか。冷たい感じのする活字で、小さな島の話だけで、こんなにもやさしい気持ちになれる、このなんとも言えない感覚を味わってほしい。私も本を読んだ、「苦手だ」と思う本もあるが、やっぱり本が大好きだ。

国語ができるようになりたいなら本を読み、語彙力を上げたのなら本を読み。まさにその通りだと思う。だが、本大好き人間として言いたいのはそれではない。そのきっかけで本を読むようになるのならもちろんすごく良い事だと思う。しかしや

はり、自分から本を読もうと思っただけでいい。少しでも興味を持てたら、この『カフーを待ちわびて』を読んでほしい。ページ数は少なくはないが、読み終えたらきつと、また本読んでみようかな、と思えるはず。私が、ミステリー、コメディ、青春、色々と読んで出会った、「私の一冊」がこの本だ。悲しい時に読みたい本、嬉しい時に読みたい本、眠れない時に読みたい本、これだけではなく、もともととたくさんさんの「本の扉」がある。「本の扉」を開いたら、あなたのための本があるはずだ。そして「あなたの一冊」に出会ってほしい。「言葉は魔法だ」と、本を読むとつくづく思う。私も、これからは本の扉を見つけては開け、たくさんの方に会っていききたい。

